

’12 第2回 避難訓練（地震・津波）実施計画案

添付資料5

須崎市立須崎小学校

- 1、目的
- ・地震（津波）の緊急事態に遭遇した時、指導者の指示に従い、沈着冷静に行動し安全に避難できる実践力を養う。（緊急地震速報全館リアルタイム放送システム活用）
 - ・防災安全についての知識と心構えを高める。
- 2、実施日時
- 平成24年9月12日(水) 9:35～（1校時後の休み時間）
- 雨天9月13、14日
- 3、参加者
- 須崎小学校児童・教職員
- 4、状況
- ・休みに、土佐沖で地震発生、大きな津波の危険あり。

5、避難訓練要領

避難要領	担当	具体的な内容	備考
1、緊急地震速報が流れる		・速報放送「訓練です。…来ます。ピッ、ピッ、10,9,8,7,6,5,4,3,2,1,ゼロ」	
☆地震発生	教頭	・地震発生。 【約90秒間の計測】	窓は開けておく。
	教職員	・教職員は次の指示が聞けるよう静かにさせる。 ・付近の児童へ指示を行う。（4へ）	避難口…別紙確認 別紙：指導事項参照
2、緊急通報	事務 (校長)	・119番へ緊急通報。 「訓練、訓練。こちらは須崎小学校〇〇です。ただ今から、須崎小学校で地震による避難訓練を実施します。（直ちに消防の出動をお願いします。）以上、避難訓練です。そちらの方のお名前をお願いします。」（相手の名前を聞いておく。）	※通報が必要かどうか検討する。
3、避難放送	教頭	・「皆さんに緊急連絡します。地震がおさまりました。 <u>児童の皆さんは、近くの出口から運動場に安全に気をつけて、すばやく避難しましょう。</u> （2回繰り返す）【計時】	①あわてない ②口を閉じる ③すばやく行動する ④押さない ⑤走らない ⑥追い越さない
4、避難開始	学級担任	☆放送後 校舎内の担任…各階ごとに声掛け、避難誘導をする。 先頭は担任。複数いる場合は、先頭と後尾に分かれる。 校舎外の担任…運動場で児童の整列・確認。	※前の人が転んだら、右手を高く上げ「止まれ」と言う。 ※上履きのままで出す。上履きを履いていない児童については、体育館履きを履く。どちらもない場合は、近くの児童に借りる。 ※校舎内では、走らない。基本的には、追い抜かない。
☆全体の見回り	級外(備考欄参照)	☆放送と並行して、級外教員は見回りスタート 直ちに南舎および新管理棟に行き教室やトイレ等に児童が残っていないか確認する。確認後、学校長(教頭)に報告。	校舎外は、早歩き。
5、運動場への一次避難	各担当	①運動場に学年ごとに整列する。（隊形は、集会の並び方を基本とする） ②担任は、速やかに人員および児童に異常がないかを調べ、学校長(教頭)に報告する。（記録：事務） 担任不在の場合は、学年またはブロックの教員がすみやかに人数の確認をする。 （万一に備え、ブロックの学級別児童数を覚えておく。）	※学年札の付近に集合。 ※一次避難場所での報告→校長(教頭) ※整列・二次避難補助…濱口、田中 報告受理・・・市川 ※不明者がいれば、級外が捜索に行く。→校長へ報告

6. 二次避難場所への避難	担 任	③負傷者の有無の状況を把握し、あれば養護教諭に連絡。負傷者がある場合は手当てをし、重傷であれば速やかに救急車の手配をする。 ④確認・報告が終了した学級から、順次二次避難場所へ避難する。【計時】 ・全学年3列で移動。 ・担任は前方で誘導する。 ・裏山登り口での補助（教頭1） ⑤到着後、担任は、人員確認および児童に異常がないかを調べ、教頭に報告する。 ※最終到着学年の点呼・報告後に計時終了	※教頭2は、最初の学年と共に避難する。 最後尾は、校長。 ※二次避難場所での報告→教頭2
6. 学校長の話			
＜備 考＞ ☆級外確認担当…南 舎 1F（東側/中央トイレ/玄関:竹田わ、西側：渡辺文） 2F（東側：五十嵐、西側：三崎） 3F（東側：6年担任、西側：藤田） FREE（山岡、教頭） 新管理棟1F（市川）、2F（吉村・田中）、3F（濱口） 体育館・中庭（岡崎） 南舎南花壇側（1・2年担任） ☆非常持ち運び品…児童（帽子または頭を保護するもの）、担任（出席簿または教務手帳等） 養護教諭（救急セット数個、欠席者数メモ）、 校長（ハンドマイク、トランシーバー）、山岡（トランシーバー） 教頭（ハンドマイク、記録用紙、ブルーシート）市川（児童名簿、記録用紙） ☆計時（ストップウォッチの用意）…校長、教頭 ※終了後…上履きは、2年教室前と自転車置き場横の足洗い場で洗い拭いて上がる。（ぞうきんの用意）			

【事前の全体指導】

○9月5日(水)の集会において、「緊急地震速報システム」についての説明を受ける。

【事前の学級指導】

- 「緊急地震速報システム」の作動について
- 地震時待機場所からの避難経路の確認
 - ・各教室、特別教室棟は、別紙防災マニュアルの通り。
 - ・その他の場所は、一番近い出入り口。通行できない状況の時は、他へ回る。

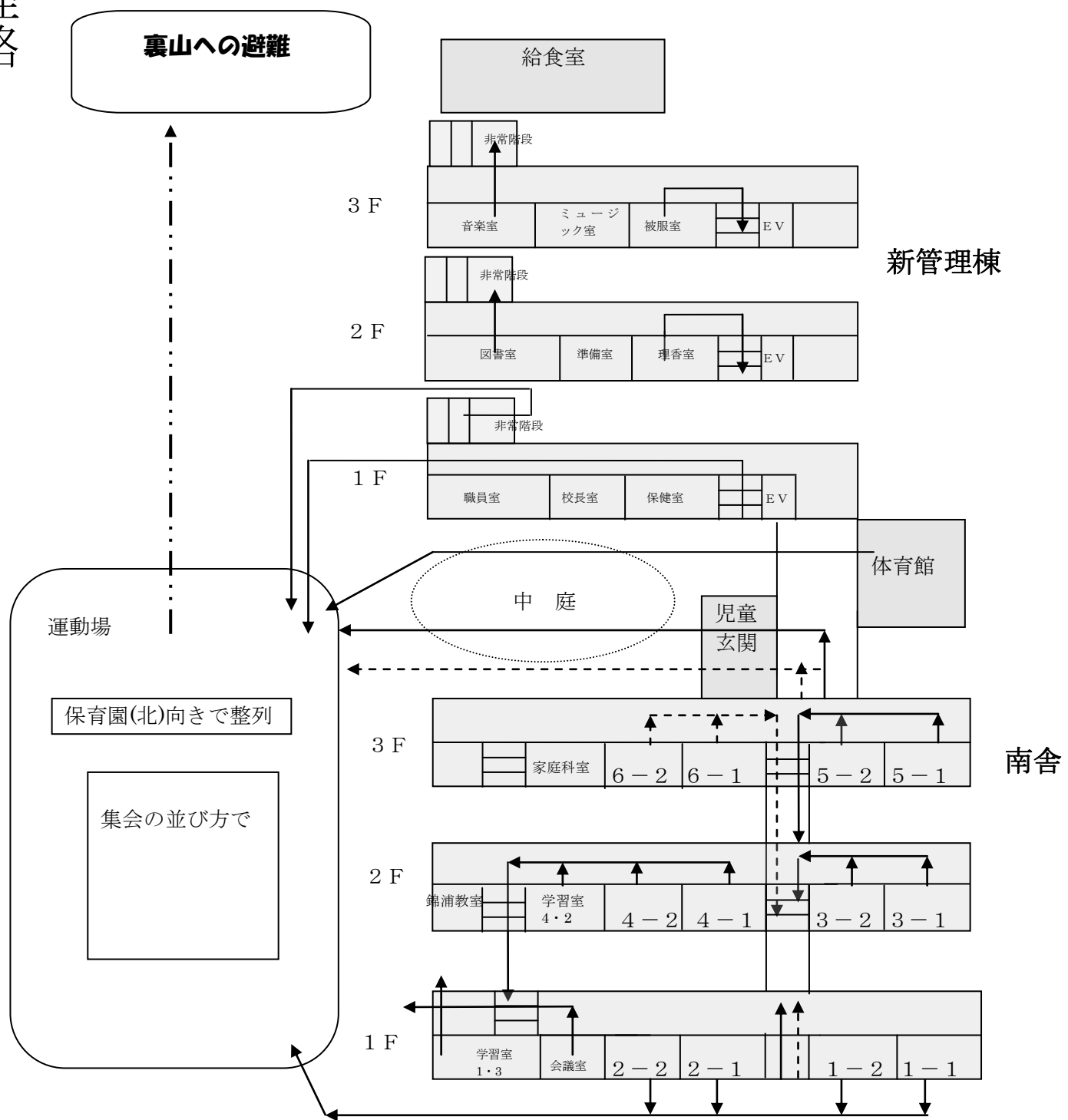
○地震時待機場所ごとの対応の仕方についての説明（別紙参照）

- 「お・は・し（必要な時以外は、しゃべらない）」の徹底
- その場の教師の指示に従う。
- 後戻りしない。

【事前の学級避難練習】

○3列で裏山へ避難

避難経路



＜避難訓練の反省＞ 月 日実施 () 学年

児童の様子にかかわって	避難経路、訓練の手順等にかかわって

緊急地震速報全館リアルタイム放送設備活用避難訓練について

報道機関用配布資料

平成24年9月12日

須崎市立須崎小学校

緊急地震速報全館リアルタイム放送システム活用避難訓練について（報道機関用）

- 1 **実施日時** 平成 24 年 9 月 12 日（水）
- 2 **実施場所** 須崎市立須崎小学校
- 3 **避難訓練想定**
 - ① 土佐湾沖で震度 7 の地震発生
 - ② 地震発生後、大津波の恐れあり
- 4 **実施計画**
 - ① 午前 9:35（1 時限目終了休み時間）緊急地震速報テストモード全館放送開始（全児童には 12 日午前中に実施とのみ事前通知。システム活用避難訓練は今回が初、システム全体説明・指導 2 回）
 - ② 全児童はそれぞれの場所で自身の安全確保行動へ、各教員はその場で児童に行動指示
 - ③ 緊急地震速報アナウンスカウント 0 の後、震度 7 の地震の揺れ発生、（効果音約 90 秒放送）
 - ④ 地震のゆれ終了後、全館放送による避難指示（須崎小学校新館放送設備には、災害時停電の時でも一定時間放送できるバッテリーが搭載されているため、今回は放送設備を使用しての避難指示。）避難完了時間計測開始。
 - ⑤ 全児童はそれぞれの場所から校庭（1 次避難場所）へ避難
 - ⑥ クラス単位で人数確認後、裏山避難道から順次 2 次避難所へ避難開始
 - ⑦ 2 次避難場所での最終確認
- 5 **事業名**：平成 24 年度実践的防災教育推進事業（文部科学省・高知県教育委員会受託事業）
 - ・高知県教育委員会主管課：学校安全対策課
 - ・事業の重点的柱
 - ① 東日本大震災の実際から学ぶ（講演会：須崎市立市民文化会館大ホール 「守った命、そして復興へ」 講師：陸前高田市立気仙中学校前副校長 鈴木秀行氏 実施済み）
 - ② 緊急受信速報全館リアルタイム放送システムの確立（平成 24 年 7 月 13 日工事終了。学校放送設備大手業者 TOA でも全館リアルタイム放送接続は今回が全国で初めてのケースのため打ち合わせから工事終了まで約 1 ヶ月半が必要）（気象庁 C アラート）
 - ③ 緊急地震速報システムを活用しての避難訓練複数回実施
 - ④ 全児童の個人別避難計画の策定
 - ⑤ 地域・保護者を巻き込んだ本事業への「企業」の参画（打ち合わせ中）
 - ⑥ 研究発表会：平成 24 年 12 月 5 日（会場：須崎小学校）
 - ⑦ 事業目標「災害発生時に最善の判断・行動がとれる児童の育成」
- 6 **事業について**
 - ① 東日本大震災の現実から、来たるべき南海地震（新想定）への対応
 - ② 事業の中での検証・成果については本校のみではなく、須崎市内校、高知県内全市町村への積極的な情報発信・提供。（今後、7 月 3 日の防災教育講演会 DVD の配布開始。須崎小学校ホームページから、緊急地震速報アナウンス、地震効果音等の公開を行い、県内のどの学校・職場においても同内容での避難訓練を可能とする。）
 - ③ システム導入の避難訓練についての児童アンケートの実施、集計、HP の公開
- 7 **本日の報道機関対応者対応について**
 - ① 総括責任者：学校長 井上和久（当日報道機関対応者）
 - ② 防災教育授業関連・年間指導計画等について：教頭 西山・和田
 - ③ 事業概要・設備設置・講演会・地域対応について：主幹教諭 山岡
 - ④ 当日の本校児童へのインタビュー等については上記①②③及び須崎小学校教員に確認必要

緊急地震速報作動時「命の10秒」の行動

緊急地震速報システムでも秒単位の誤差が想定されます。カウント3秒までに！

★1 教室の場合

すぐに机の下に入り、机の脚を対角に両手で握り体を丸くして落下物、ゆれに備える。

★2 ローカ・階段の場合

教室の近くなら教室へ帰り、★1の体制をとる。教室へ帰れない場合は、倒壊物や窓ガラスの破損の恐れがあるため、壁から離れて座って、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★3 体育館の場合

中庭に移動し、建物から離れて、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

体育館から外への避難が困難な場合は体育館中央に移動し、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★4 トイレの場合

教室へ帰れる場合は教室に帰り★1の体制をとる。便器に座っている場合は、地震でドアが開かなくなる恐れがあるので、すぐにドアを開け、その場で頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★5 調理室・理科室・図書室等の場合

壁から離れ、イスを両手で持ち頭を覆い、衝撃防御姿勢をとる。

★6 パソコン室の場合

完全に机の下に体全体を入れ★1の体制をとる。地震により机の上のパソコンが確実に落下する。

★7 運動場の場合

運動場中央に移動し、集団で衝撃防御姿勢をとる。

★8 中庭の場合

運動場へ急いで行き衝撃体制をとる。移動が間に合わない場合には中庭中央で校舎から離れ衝撃防御体制をとる。

★9 プールの場合

急いでプールの縁を持ち、体を支える。震度の強い地震の場合かなりの波うちが発生する。

★10 全共通

建物、壁、窓ガラス、倒壊物から離れ、衝撃防御体制をとる。避難指示があるまではその場で身を守る。

※校舎内にいるときは必ず上履きを履く。素足では破損ガラスの上を歩けない。

★★ パニックにならない

緊急受信速報システムがあっても、実際に地震が発生すると学校の全員がパニックになり正常な判断ができなくなります。須崎小学校の防災教育の目標は児童の一人ひとりがその場で最善の行動をとり、命を守ることができるようになることです。東日本大震災から学び真剣に取り組みましょう。

緊急地震速報全館リアルタイム放送システム設置完了

平成 24 年 7 月 13 日（金）

今年須崎小学校が指定を受けている防災教育のハード整備面での核となる緊急地震速報全館リアルタイム放送システムの工事が完了しました。

須崎市内の学校にはこのような緊急地震速報受信端末が職員室等に設置されています。

しかし、これは端末だけで職員室等の設置場所にしか受信・放送されません。ちなみに緊急地震受信速報システムとは、まず端末からアラームが鳴り「震度 7 強、18 秒後 アラーム音の後 10.9.8.7.6.5・・・」というふうにカウントダウンが始まり、0 になった時にその地震が襲ってくるという、直前に地震の発生を知らせるシステムです。（本校設置の緊急地震速報は気象庁の C アラートシステムにより配信されます。C アラートは震源地より 20km 単位の輪切りで測位されるため、端末の設置位置（市町村）によって、震度や地震発生までの残り秒数がそれぞれの設置位置に応じて放送される精度の高いシステムです。

信号を受信し緊急アナウンスが聞こえるのはこの端末からのみ。

つまり設置している場所でしか聞こえません。小学校は中学校、高校（教科担任制）とは異なり授業中はあまり先生が職員室にいません。

この放送を聞いた職員が全館放送を入れたとしてもその時にはもう地震が起きています。そこで、従来の受信システムに写真の黒い拡張ユニット装置を追加し、新築の須崎小学校新館の放送システムと接続します。須崎小学校の新館には学校等の放送機器業者大手の TOA（トア）さんの新しい機器が装備されていますが、この全館リアルタイム放送システムの構築は大手業者の TOA さんでも今まで設置したことがないということです。約 1 ヶ月半の地元の業者さんと TOA さんとの調整後、本日工事が行われました。



テスト放送を何回か行い正常に機能していることが確認されました。新校舎建築後に放送の難視聴帯であった中庭にもスピーカーが追加され校舎周辺では、全ての放送が子どもたちに聞こえるようになりました。今後はこの緊急地震速報全館リアルタイム放送システムを活用しての避難訓練を行います。

須崎小学校の新しい放送設備には災害発生時に停電しても、しばらくは放送できるバッテリーが搭載されているようですが、このバッテリーを試すには、校舎の電源をすべて落とすしかありません。

また、古い学校用放送設備への受信端末を接続して上記の「全館リアルタイム放送システム」を構築するためには、設置費がかなりの高額となります。



1 ～システム概要～

① 工事概要

現在須崎小学校に設置されている緊急地震速報装置端末 (SH210-J) を須崎小学校内に自動的に放送を行えるように、既設校内放送設備 (FS991) と連動し、緊急地震速報の全館リアルタイム放送を行う。

② 工事内容

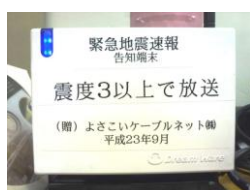
既設緊急地震速報装置 (SH210-J) から既設校内放送設備 (TOA FS991) に音声・起動信号を連動するように、拡張ユニット (写真黒の装置 SH210-J-O) の設置。音声起動信号用の配線、接続工事を行う。

③ 放送の優先順位

緊急地震速報を校内の最優先とするため、既設校内放送設備 (TOA FS991) のタイマー入力端子に接続を行う。既設時報チャイムは、音声入力端子へと接続変更を行い、他の業務放送と優先順位を同じとする。また、FS991 の設定を「優先無し」とし、チャイムと他の業務放送は同時放送とする。

2 ～ システム構成図 ～

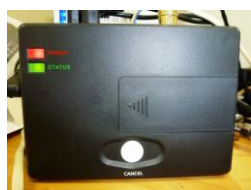
(既設) 緊急地震速報端末親機
(SH210-J)



SH210-J (親機)

(新設) ケーブル
(起動・音声)

(新設) 拡張ユニット
(DPASS SH210-J-O)



DPASS SH210-J-O
(拡張ユニット)

(新設) ケーブル
(起動・音声)

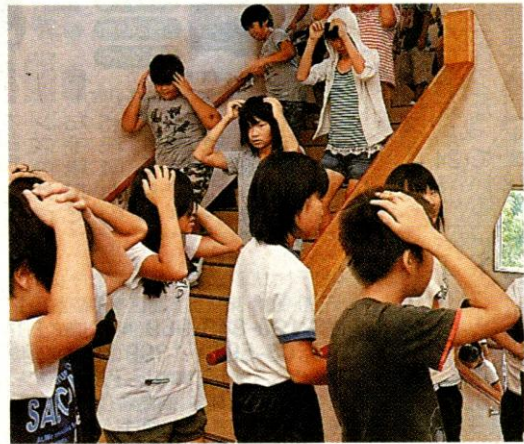
(既設) 校内放送設備
(TOA FS991)



「18秒後地震」速報聞き避難

須崎小「Cアラート」訓練

緊急地震速報を利用した避難訓練が12日、須崎市東



手で頭を覆いながら校舎を出る
児童ら＝須崎市立須崎小学校

紀町の市立須崎小学校であった。

同小ではケーブルテレビ網を使った緊急地震速報システム（Cアラート）の受信端末が職員室に設置されている。その速報をリアルタイムで全校に放送する設備が7月に完成したことを受けて、訓練を実施した。

この日は休み時間の午前9時35分に訓練を開始。

「震度7、18秒後、17、16」とカウントダウンの放送が始まると、児童らはすぐに教室に戻って机の下に入り、その後揺れが収まったという想定で、裏山の高台に避難した。

児童らには事前に「午前中に実施」とだけ知らせ、廊下、トイレ、中庭、運動場、プールなど、場所ごとの注意点を教えていた。254人の児童全員が高台に逃げるまでの時間は6分25秒だった。井上和久校長は「校舎の中では頭を手で覆って避難するなど、みんなが気をつけて行動できた」と話した。

(釘田寿一)

揺れる前に避難行動

須崎小 地震速報活用し訓練

【須崎】須崎市の須崎小学校で12日、地震は今年7月、同速報を直前に予測して知らせる「緊急地震速報」を活用した避難訓練が

初めて行われた。同校は今年7月、同速報を自動で校内全館に放送するシステムを整備。児童は地震発生前に逃

げる時間を体感した。気象庁の同速報は揺れの到達時刻や震度を予測して伝える。須崎市のケーブルテレビ会

社が今年6月、同市内などの幼保・小中学校に受信端末を寄贈。同校は校内放送と直結す

る仕組みを整備した。訓練は午前中の休み時間に実施。児童約250人は具体的な訓練時間を知らされないまま、「18秒後、震度7」の放送が入った。廊下の児童は教室の机の下、中庭からは校庭の中央など、児童は事前の指導に従って行動。90秒間の揺れが収まった後、海拔約260mの裏山へ避難した。トイレの個室にいた児童も放送を聞いて、教室に入れたという。

(八田大輔)



緊急地震速報を聞き、揺れる前に机の下に避難する児童（須崎市の須崎小）